opusdei.org

## 年間第11週・水曜 日 93 念祷

ー その必要性と実り。 一 始める前の祈り。神の現存を自覚させる。 一 聖徒の交わりによる助け。

2024/04/28

年間第11週・水曜日

9 3 念祷

一 その必要性と実り。

- 一 始める前の祈り。神の現存を自覚させる。
- 聖徒の交わりによる助け。
- 93.1 念祷の必要性とその実り

今日のミサの福音<sup>1</sup>は、個人的な祈りへの招きです。イエスは教えています。祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならおうであったりの角に立ってもられる。だから、あなたがある。だから、あなたの分に祈りなさい。

祈りについてこう教えた主は、ご自身、この世の生活をとおして、教えたことを実行なさいました。福音は、イエスが、祈るために何度も退かれたことを述べています<sup>2</sup>。 使徒たちと初代キリスト信者、やがては主の身近に従いたいと思ったすべて

の人々は、その模範に心を惹かれました。聖性に至る道は祈りの道です。「小さな種子が時を経て青々と生い茂る大木に成長するように、祈りも心の中で少しずつ根を下ろしていかなければなりません」。。

日々の祈りは、攻撃を止めることの ない敵を見張るのに役立ちます。そ れは、試練と困難のとき、私たちを 強めてくれますし、私たちは他の 人々に什えることを祈りによって学 びます。そのお陰で、私たちの道を 遮る障害物をはっきりと見ることが できるようになるので、祈りは私た ちの道を照らす強い光を放つ灯台と 言えます。個人的な祈りは、他人と の関係に決定的な影響を与え、仕事 をより良く果たし、家族や社会の義 務も良く果たすようになります。し かし、何よりも、それは、主とどの ように付き合い、どのように愛に成 長するかを教えてくれます。祈るこ とを止めるな! 聖ヨハネ・パウロ||

世は、私たちにこう忠告されます。 祈りは義務である。しかし、それは 大きな喜びでもあります。イエス・ キリストを通した神との対話である から!<sup>4</sup>

祈りにおいて私たちはイエスと共に います。これだけで十分です。私た ちは、自分をイエスに与え、イエス を知り、どのように愛するかを学ぶ ために祈りに赴きます。そうできる のはそれぞれの状況次第です。つま り、私たちがいる所、その瞬間に 行っていること、私たちを喜ばせる 良いこと、経験している挫折や悲嘆 によるのです。キリストの近くに私 たちがいれば、すべてを喜びに変え ることができるからです。度々、私 たちは、福音の出来事を勉強し、イ エスの至聖なる人性を黙想して、主 への愛を大きくします。人は良く知 らないものを愛することはできませ んから。また、仕事を聖化し、神の 傍にもっと近づくことを決意した

念祷では、恩恵の助けによって 散漫と戦い、自分からは決して 散漫と戦い、でなるがないでのがいる を受け入れず、対話を保があり、 である主とがはる必要がけいする であるを働かで主にがいますを傾がない。 です。 ることがないがいますを がいでするのです。 はいですることがないます。 であることがはいることを はいで神に を受けることを がいですることがないます。 はいでは、 にいることを はいでは、 にいることを はいて神に をはいることを はいて神に をはいることを はいて神に をはいることを はいて神に をはいることを はいていることを はいて神にを はいていることを はいていることを はいていることを はいて神にを はいていることを はいていることを はいて神にを はいていることを はいていることを はいていることを はいていることを はいることを はいることを

93. 2 祈りの準備。神のみ前に自 分を置くこと

お話ししたいと思う方のみ前に自分を置くことは特に重要です。私たちを心にかけ、祈願や愛の行いを待っておられる御方のお傍にいるにはこの最初の段階が大切です。これがうまくいけば、おそらく、私たちを苦しめている問題も主とともに考え続

私たちの考え、感情、望み、超自然 的仕事の推進力として、あなたが私 を見、耳を傾けてくださいますよう に!|

しかし、私たちが話したいと思った この重要な人に、母、私たちをも愛 してくれた母がいるとすれば、彼女 の助けを願い、私たちのために仲介 してくださるよう願わないでしょう か? 私たちの母でもある、神の御母は、私たちがこう願うのをいつも喜んで待っておられます。汚れなき御母よ。そして、イエスの養父である聖ヨセフに助けを求めます。彼も私たちの神への力強い擁護者です。

「我等の父であり主(あるじ)である 聖ヨセフ。そして私たちを助け守っ てくださる天国の王子、守護の天使 よ、私たちのためにとりなしてくだ さい! |

「この世で礼儀を心得た人なら誰もが行うように、念祷の準備の祈りが終われば、お話しすることができます。何について? 私たちの喜び、悲しみ、仕事、望み、抱負、あらゆることを! |

「私たちはまた、神に単純にこう言うことができます。私の神よ、私は赤子のようにここにいますが、あなたに何を申し上げたら良いかわかりません。あなたに話し、祈り、あな

たの子であるイエスと親しくなりたいのです。私は、ここ、あなたの傍にいることは分かっています。一言も言えません。私が最も愛する婦人、母と共にいればあらゆることを話すでしょう。しかし、あなたと共にいれば何も考えることができません」。

これが祈りです! 予め決められた時間の間、主の足もとの小さな犬のように聖櫃の前に留まり、主よ、ここにいます! 辛いのです! 逃げ出したいところです。しかし、愛によって、ここにと留まるつもりです。あなたが私を見て、耳を傾け、微笑んでくださるのを知っているからです。。

主の傍で、主に何を話して良いかわからない時でさえ、私たちは平和に満たされます。義務を果たすために必要な力を取り戻します。そして、十字架は光になります。今、それは

私たちのものだけではないからで す。キリストが運ぶのを手伝ってく ださるからです。

## 93.3 聖徒の交わりによる助け

念祷を、聖櫃におられるキリストの 近くで、あるいはどこでしていて も、調子の良い時も、するのが難し く何も役に立たないと思える時で も、私たちは、愛によって忍耐強く やり遂げるでしょう。世界のあらゆ る地域で祈る教会に一致しているこ とを意識することは、度々私たちの 役に立つでしょう。私たちの声は、 聖霊のうちに、神の御子をとおし て、御父である神に、各瞬間にあげ られる叫びに一致しています。聖聖 ホセマリアは続けてこう言われまし た。念祷の時間に、また、一日中、 物理的に遮断されていることがわ かっても、私たちは決して独りでは ないことを思い出しなさい。一生の 間、私たちは常に、天国の諸聖人

に、煉獄で清めが続いている霊魂 に、この世でまだ戦い続けているす べての兄弟姉妹と一致しています。 そのうえ、それは、聖なる教会の共 同体の賞賛に値するしるしなので、 私たちにとって素晴らしい慰めで す。自分の祈りを、あらゆる時代の すべてのキリスト者の祈りに、ま た、あなたより先に亡くなった人々 や今生きている人々、まだ訪れてい ない世紀に生きる人々の祈りに一致 させることができます。このように して、終わることなく神をほめたた える歌、聖徒の交わりの素晴らしい 現実に気づけば、冷え切った困難に 直面していても、人は努力してで も、もっと自信を持って祈り続ける でしょう。

あなたの祈りは、イエス・キリストと共に生きたことのあるすべての 人々の祈り、戦う教会、苦しむ教 会、勝利する教会の絶えることのな い祈りに一致していることを知り、 喜びで満ち溢れていなさい。それはなお、これから訪れるすべての人を加えます。従って、祈りを続けること思う時も祈りを続けることのです。入りない、永遠にあなたを賛美するのをない、永遠にあなたを賛美するのです」で、私のです」で、私のです」で、私のです」で、

その中に努力を投じ、私たちを愛してくださっているとわかる方とだけいるように決心すれば、日々の祈進の中で、私たちはあらない喜びが進ることのない。 そ見出します。 祈りの生活がに成のもます。そして、私たちによす。 付き 使徒職と犠牲の精神にます大きな影響を及ぼします。

聖母の息子イエスとどのように付き 合えばよいか教えてくださるよう に、聖母に度々頼りましょう。 御母

ほど救い主にどのように話しかける かをご存じの方はおられないからで す。そして、聖母とともに、聖ヨセ フのところへいつも馳せつけましょ う。彼は、仕事や休息、長い旅をし ている時、ナザレの町で仕事をして いる時、彼の子ども、少年である若 者イエスといつも語り合った方で す。マリアの次に、ヨセフは、神の 子の傍で、最も多く時間を過ごされ た方でした。ヨセフは、主とどのよ うに語り合うか教えてくれるでしょ う。そして、ヨセフにお願いすれ ば、具体的で明確な固い決心をする ように私たちを助けてくれるでしょ う。そうすれば、仕事を向上させ、 私たちの性格の荒い縁を削り取り、 もっと人に仕える心構えができ、私 たちに必ずといってよいほど降りか かる、人生のどのような浮き沈みや 矛盾に遭っても、朗らかでいること ができるでしょう。

聖ヨセフ、わたしのためにお祈りください。聖ヨセフ、彼らのために祈ってください。(ここで私たちは、特に具体的に祈ってあげたいと思う人のために、特に心を集中させて祈ることができます)。そして私のために祈ってください。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> マタイ14:23;マルコ1:3 5;ルカ5:6 など参照

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, 『神の朋友』, 295

<sup>&</sup>lt;sup>4</sup> 聖ヨハネ・パウロII世,Address,1 4 March 1979

<sup>4</sup> March 1 9 7 9

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> E.Boylan, This Tremendous Lover

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, Historical Records of the Founder, 20165,p.1410

 $\frac{7}{2}$  聖ホセマリア・エスクリバー, Historical Records of the Founder, 20165, p.1411

 $^{8}$  St Teresa, Life, 8, 2

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-XI-sui/ (2025/10/30)